

四年制大学で介護福祉士国家資格を 取得した職員の就業実態

—介護実習における学びの成果及び就業実態—

介護福祉士養成大学連絡協議会 調査研究委員会

○棚田裕二（広島文教大学）

宮内寿彦（十文字学園女子大学）、古川和稔（東洋大学）

林和歌子（城西国際大学）、大町いづみ（長崎国際大学）

久保田寛（国際医療福祉大学大学院）、河内佑美（広島文教大学）

大塚和美（福山平成大学）

調査研究の背景と目的

- 実習指導者がとらえている四年制大学での介護福祉士実習生の実習への印象
 - 四年制大学で学んだ介護福祉士養成課程卒業者の就業実態およびキャリア形成の現状
- 四年制大学での介護福祉士養成教育において、どのような人材・能力が育成されているのか



介護福祉士養成教育の効果や今後の課題

※本調査は、第8期介護福祉士養成大学連絡協議会 調査研究委員会の研究事業として実施したものである。

研究方法：調査対象者、調査期間

- 本調査の対象

介護福祉士養成大学連絡協議会正会員の介護
実習施設・事業所

➤ 四年制大学の介護福祉士養成課程から介護実
習を受け入れている、全国の1,057施設・事業
所を対象

- 調査期間

2023年9月25日から2023年11月30日の期間

研究方法：調査方法

- 質問票配布と回収の手続き

郵送法による自記式質問紙調査（2023年9月に質問票1,057通を郵送、回収締切りは2023年11月30日）。

- 調査内容

調査票A：介護福祉士実習指導者

調査票B：施設長または事務長

研究方法：調査方法

- 調査票A：介護福祉士実習指導者

- ① 1,057通発送し、156通の回答が得られた（回答率：14.8%）
 - ② 調査票冒頭の研究への同意についてチェックがなかった18通は分析対象から除外⇒138通を分析対象とした（有効回答率：13.1%）
 - ③ 四年制大学及び専門学校の両方を受け入れている回答のみを抽出
- 78通を分析対象とした（有効回答率：7.4%）

研究方法：調査方法

- 調査票B：施設長または事務長

- ① 1,057通発送し、123通の回答が得られた（回答率：11.6%）
- ② 調査票冒頭の研究への同意についてチェックがなかった45通は分析対象から除外
 - 78通を分析対象とした（有効回答率：7.4%）。

研究方法：調査票A「介護福祉士実習指導者」

① 介護実習の受け入れ状況について

✓実習施設・事業所等（Ⅰ）：記述式

✓実習施設・事業所等（Ⅱ）：記述式

② 四年制大学介護実習生と専門学校介護実習生の介護実習到達度について（選択式、自由記述）

✓四年制大学介護実習生の平均的な印象

✓専門学校介護実習生の平均的な印象

③ 介護福祉士実習指導者について（選択式、自由記述）

✓介護実習指導を行う際に意識している点

④ 基本属性について

研究方法：調査票B（施設長または事務長）

① 施設・事業所について

- ✓施設・事業所の所在地：記述式
- ✓施設・事業所の所在する市区町村の分類：選択式
- ✓施設・事業所の法人格：選択式

② 介護職員の月額給与について（四年制大学卒、専門学校卒など）

- ✓今年度採用の新卒介護福祉士の初任給〔2023年度実績〕（月額）：記述式
- ✓勤続10年、非管理職の介護福祉士の給与〔2023年度実績〕（月額）：記述式
- ✓勤続10年、管理職の介護福祉士の給与〔2023年度実績〕（月額）：記述式

研究方法：調査票B（施設長または事務長）

③ 介護職員の入職、退職について

✓昨年度（2022年度）の、正規雇用介護職員の新卒採用者数：記述式

✓昨年度（2022年度）に採用した正規雇用介護職員のうち、年度末までに退職した職員数：記述式

④ 四年制大学で介護福祉士国家資格を取得した職員の強み（長所）について

倫理的配慮

- 回答は自由意思であること
- 個人や施設・事業所は特定されないためにプライバシーは保護されること
- 調査結果は本研究のみに使用し、得られたデータは数値化し個人が特定できないように処理すること
- 適切に管理を行い個人情報保護に努めること
- 報告書としてまとめ公表すること
- 疑問点や不明な点がある場合には、いつでも研究責任者に問い合わせができること
- 要望があれば、研究結果を知ることが可能であること
- アンケートの冒頭に、研究協力についてのチェック項目を設け、本調査への協力について同意のチェックを入れた回答のみ分析対象

本研究は介護福祉士養成大学連絡協議会研究倫理審査委員
会の審査を受け、承認を得てから実施した（承認番号 四
大協-1）。

調査票A「介護福祉士実習指導者」

現在受け入れている介護実習の要件と受け入れ状況

要件	養成校	度数	平均値	最大値
実習施設・事業所等(I)	四年制大学	70	1.31	3
	短期大学	30	0.93	2
	専門学校	66	1.88	5
	高等学校	30	0.90	4
実習施設・事業所等(II)	四年制大学	68	1.20	4
	短期大学	26	0.88	2
	専門学校	69	1.77	5
	高等学校	22	0.68	3

調査票A「介護福祉士実習指導者」

		度数	%
性別	男性	49	63.6
	女性	28	36.4
年齢	20代	1	1.3
	30代	18	23.1
	40代	36	46.2
	50代	19	24.4
	60代以上	4	5.1
総経年数	1年未満	0	0.0
	1年以上3年未満	0	0.0
	3年以上5年未満	0	0.0
	5年以上10年未満	3	3.8
	10年以上	75	96.2
所属施設経年数	1年未満	0	0.0
	1年以上3年未満	2	2.6
	3年以上5年未満	3	3.9
	5年以上10年未満	12	15.6
	10年以上	60	77.9
取得資格 ※複数回答可	介護福祉士	75	96.2
	社会福祉士	18	23.1
	介護支援専門員	30	38.5
	看護師	2	2.6
介護福祉士取得ルート	養成施設_専門・短大	28	37.3
	養成施設_四年制大学	1	1.3
	実務経験	44	58.7
	福祉系高校	1	1.3
	EPA	1	1.3
実習指導者講習会	修了	60	77.9
	未受講	17	22.1
	受講中	0	0.0

調査票A「介護福祉士実習指導者」

四年制大学介護実習生と専門学校介護実習生の平均的な印象

		大いにできている		どちらかと言えばできている		どちらともいえない		どちらかと言えばできていない		全くできていない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけている	四年制大学	12	16.0	44	58.7	16	21.3	3	4.0	0	0.0
	専門学校	4	5.3	40	53.3	27	36.0	4	5.3	0	0.0
2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得している	四年制大学	3	4.0	33	44.0	28	37.3	11	14.7	0	0.0
	専門学校	2	2.7	29	38.7	35	46.7	9	12.0	0	0.0
3. 介護実践の根拠を理解できる	四年制大学	7	9.3	34	45.3	33	44.0	1	1.3	0	0.0
	専門学校	3	4.0	29	38.7	39	52.0	3	4.0	1	1.3
4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる	四年制大学	10	5.3	34	45.3	31	41.3	6	8.0	0	0.0
	専門学校	2	2.7	26	34.7	41	54.7	6	8.0	0	0.0
5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる	四年制大学	3	4.0	44	58.7	25	33.3	3	4.0	0	0.0
	専門学校	1	1.3	33	44.0	34	45.3	7	9.3	0	0.0
6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる	四年制大学	2	2.7	26	34.7	37	49.3	10	13.3	0	0.0
	専門学校	1	1.3	15	20.0	49	65.3	9	12.0	1	1.3
7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養っている	四年制大学	2	2.7	24	32.0	42	56.0	7	9.3	0	0.0
	専門学校	1	1.3	16	21.3	51	68.0	7	9.3	0	0.0
8. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につけている	四年制大学	4	5.3	24	32.0	39	52.0	8	10.7	0	0.0
	専門学校	4	5.3	18	24.0	46	61.3	7	9.3	0	0.0
9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につけている	四年制大学	5	6.7	36	48.0	29	38.7	4	5.3	1	1.3
	専門学校	3	4.0	34	45.3	32	42.7	6	8.0	0	0.0
10. 的確な記録・記述の方法を身につけている	四年制大学	5	6.7	35	46.7	33	44.0	2	2.7	0	0.0
	専門学校	1	1.3	21	28.0	45	60.0	8	10.7	0	0.0
11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につけている	四年制大学	5	6.7	34	45.3	29	38.7	7	9.3	0	0.0
	専門学校	2	2.7	23	30.7	46	61.3	3	4.0	1	1.3

四年制大学介護実習生と専門学校介護実習生の平均的な印象

【四年生大学介護実習生】

- 積極的な学生が多かった
- 座学での学びが深く、知識や理解が多い
- 基本をしっかりと勉強されてきている
- 介護を実践する為のエビデンス、介護プランを作成する際のアセスメント能力はとても高い
- ◆社会性が成り立たず、あいさつも無い
- ◆コミュニケーションの苦手意識が高い
- ◆コミュニケーションや介護過程の形式にとらわれ、利用者様の思いになかなか近づけない
- ◆ギャップ（学んだ知識と、実際に生かす場面や実践）に戸惑う事が多い

四年制大学介護実習生と専門学校介護実習生の平均的な印象

【専門学校介護実習生】

- 元気が良い実習生が多く、考え方が柔軟
- 礼儀や身だしなみ、あいさつなど基本的な接遇がしっかりしている
- 入居者様と積極的にコミュニケーションをとることができていた
- 明確な目標を持って、実習にのぞんでこられている
- ◆外国人の実習生を受け入れることが多く、コミュニケーションに苦慮している
- ◆他の学部学科との合同ゼミなどの機会がないので、他の職種への理解はおとる
- ◆基礎学力や言語化能力が課題となる場合も多く、アセスメントする為の知識量が乏しい

考察

① 四年制大学介護実習生と専門学校介護実習生の平均的な印象について

✓4年間という養成教育を受けて、高度な知識や技術などを習得した介護福祉士の養成

「介護福祉観の萌芽の確立」

「実践力の強化（専門技術の修得、実習効果の担保）」

「生活センスの涵養」

「生活障害に対する洞察力と予測性の習熟」

「チームケアの担い手の育成」

井上千津子（2008）、4年制大学における介護福祉教育の社会的意義、京都女子大学生活福祉学科紀要、4、p1-6。

考察

① 四年制大学介護実習生と専門学校介護実習生の平均的な印象について

✓教員全体が『養成責任、資格付与責任をどのように受け止めているか』は教育内容にも大きな影響を与える

吉田弘美・佐藤直由（2014）、4年制課程における介護福祉教育に関する一考察：学生の意識調査より、保健福祉学研究、第1号、p97-109



「福祉教育の価値や人権」をどのように意味づけしていくか

調査票A「介護福祉士実習指導者」

自身が介護実習指導を行う際に意識している点

		大いにできている		どちらかと言えばできている		どちらともいえない		どちらかと言えばできていない		全くできていない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけている	養成施設	5	17.2	21	72.4	3	10.3	0	0.0	0	0.0
	実務経験	7	16.3	33	76.7	3	7.0	0	0.0	0	0.0
2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得している	養成施設	2	6.9	21	72.4	6	20.7	0	0.0	0	0.0
	実務経験	3	7.0	28	65.1	9	20.9	3	7.0	0	0.0
3. 介護実践の根拠を理解できる	養成施設	5	17.2	18	62.1	5	17.2	1	3.4	0	0.0
	実務経験	5	11.9	33	78.6	4	9.5	0	0.0	0	0.0
4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる	養成施設	2	6.9	20	69.0	7	24.1	0	0.0	0	0.0
	実務経験	4	9.3	30	69.8	8	18.6	1	2.3	0	0.0
5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる	養成施設	2	6.9	23	79.3	4	13.8	0	0.0	0	0.0
	実務経験	6	14.0	27	62.8	9	20.9	1	2.3	0	0.0
6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる	養成施設	0	0.0	11	39.3	16	57.1	1	3.6	0	0.0
	実務経験	1	2.3	11	25.6	25	58.1	6	14.0	0	0.0
7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養っている	養成施設	2	6.9	16	55.2	10	34.5	1	3.4	0	0.0
	実務経験	4	9.3	27	62.8	9	20.9	2	4.7	1	2.3
8. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につけている	養成施設	2	6.9	19	65.5	8	27.6	0	0.0	0	0.0
	実務経験	7	16.3	30	69.8	6	14.0	0	0.0	0	0.0
9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につけている	養成施設	4	13.8	17	58.6	7	24.1	1	3.4	0	0.0
	実務経験	7	16.3	30	69.8	6	14.0	0	0.0	0	0.0
10. 的確な記録・記述の方法を身につけている	養成施設	3	10.3	16	55.2	9	31.0	1	3.4	0	0.0
	実務経験	2	4.7	25	58.1	14	32.6	2	4.7	0	0.0
11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につけている	養成施設	3	10.3	14	48.3	10	34.5	2	6.9	0	0.0
	実務経験	5	11.6	24	55.8	13	30.2	1	2.3	0	0.0

考察

② 介護実習指導を行う際に意識している点について
項目5「利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる」

項目7「他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養っている」

➤養成施設ルートの実習指導者の方が『大いにできている』と回答した人が少なかった

- ✓適時・適切なスーパービジョンの展開
- ✓1対1の個別介護を組み立てたうえでの実践
- ✓家族や他の専門職と共に援助していくチームケア
- ✓サービスを創設し、基盤を整備していく

考察

② 介護実習指導を行う際に意識している点について

項目6「介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる」

- 養成施設ルート、実務経験ルートともに「できている」と回答した人が少なかった
- ✓ 介護福祉士養成カリキュラムの中で制度や施策などの基礎的理解する
- ✓ 計画的に制度とサービスを提供できる能力を養う

調査票B「施設長または事務長」

回答した施設・事業所の市町村の分類

	度数	割合(%)
市	42	53.8
政令指定都市	26	33.3
東京 23 区	6	7.7
町村	4	5.1
合計	78	100

回答した施設・事業所の法人格

	度数	割合(%)
社会福祉法人	63	80.8
株式会社	5	6.4
NPO法人	5	6.4
医療法人	3	3.8
その他	2	2.6
合計	78	100

調査票B「施設長または事務長」

給与について

【新卒】

- 四年制大学卒 : 178,050円
 - 専門学校卒 : 169,750円
-) 8,300円

【勤続10年・非管理職】

- 四年制大学卒 : 207,800円
 - 専門学校卒 : 196,200円
-) 11,600円

【勤続10年・管理職】

- 四年制大学卒 : 219,000円
 - 専門学校卒 : 215,000円
-) 4,000円

調査票B「施設長または事務長」

昨年度（2022年度）の介護職員の入職者数、退職者数とその内訳

	回答数	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値
2022年度の正規雇用介護職員の新卒採用者数	75	3	2.45	8.284	0	70
(内訳)	37	41	0.41	1.04	0	5
四年制大学卒	43	35	2.14	6.823	0	45
専門学校卒	44	34	1.7	3.303	0	20
その他	74	4	1	1.828	0	10
2022年度に採用した正規雇用介護職員のうち、 年度末までに退職した職員数	25	53	0.28	1.021	0	5
(内訳)	31	47	0.68	1.194	0	5
四年制大学卒	37	41	1.16	1.405	0	7
専門学校卒	45	78	0.53	1.036	0	5
その他	56	67	1.25	1.643	0	8

2022年度の介護職員新卒採用者

【1施設・事業所当たりの平均値】

- 専門学校卒1.7人（最大値20人）
- 四年制大学卒は2.14人（最大値45人）

➤ 四年制大学卒の介護福祉士は、他職種に流れず、介護福祉実践現場に就職している可能性がある

調査票B「施設長または事務長」

四年制大学で介護福祉士国家資格を取得した
職員の強み（長所）として考えられること
（複数選択可能）

	回答数	欠損値	チェック数	有効割合(%)
利用者の理解	65	13	36	55.4
論理的思考・表現	65	13	36	55.4
チームアプローチの実践的理解	65	13	27	41.5
多職種協働	65	13	21	32.3
権利擁護活動	65	13	17	26.2
マネジメント	65	13	15	23.1
地域の理解	65	13	11	16.9
その他	65	13	12	18.5

四年制大学で介護福祉士国家資格を取得した 職員の強み（長所）

- 「利用者の理解」「論理的思考・表現」：55.4%
- 「チームアプローチの実践的理解」：41.5%
- 「多職種協働」32.3%

要因として

- 指定科目以外の独自科目を設置している
- 社会福祉士養成課程を併設し、2つの国家資格取得を目指す学生が多い
- コミュニケーション・スキル、問題解決能力、自己管理能力、などの学修項目

本研究の限界と今後の課題

- サンプルングの偏りと、回答率の低さ
- 四年制大学介護福祉士養成課程の卒業生の割合が非常に少ない